

# オーブン カレッジ

名古屋経済大学  
経済学部准教授



## 龍宏氏 榎平

資本主義経済は、常に成長拡大の原動力である「中心」と、その中心を支える「周辺」との重層的構造によって成立してきた。グローバルなレベルでは、先進国は植民地たる途上国からの資源収奪を自らの利益のために、常に成長拡大の原動力である「中心」と、その中心を支える「周辺」との重層的構造によって成立してきた。グローバルなレベルでは、先進国は植民地たる途上国からの資源収奪を自らの利益のために、常に成長拡大の原動力である「中心」と、その中心を支える「周辺」との重層的構造によって成立してきた。

「地方」農村部との関係、また、都市内部における非正規雇用（低所得かつ流動性）の側面のみならず、両地域の

### 「地方創生」のめざすべきもの

「地方」農村部との関係、また、都市内部における非正規雇用（低所得かつ流動性）の側面のみならず、両地域の

## 都市と農村 関係再編が不可欠

経済成長を続ける都市部との地域間格差を縮小するために多大な公共事業や補助金が交付されたが、それらは地方経済の自立性をよりいっそう低め、中央財政への依存性の高い画一的で再生産不能な経済構造に結果した。

都市機能維持のために、主に建設業や医療・福祉サービス業へ外国人労働力を受け入れやすくするための規制緩和は、3K産業の近隣諸国労働者への押しつけ以外の何ものでもない。

「地方創生」が目指すべきものは、都市と地方の人・モノ・食料・エネルギーなどの経済循環を再構築することその大きな目標とすべきだろう。特に、今後の分権化において重要性を増していく地方中核都市と周辺農村部との複雑で多様な循環的關係を作り出していくことが不可欠である。

アメリカのジャーナリスト

